

あの場の雰囲気、「何か言わなくては」という思いもあり、誰かの発言に共感や反感を持ち、それを自分を認めてくれている友達以外の大勢の場で発言するのはとても勇気がいったが、何か言えば先生なり友達なり誰かが返してくれるのが嬉しかった。発表に慣れてくると、誰か共感者がいる思い、心強く大勢の場で話すのが心地よく思う時もあった。

先生の目がこちらに向き再び期待に応えようと、何か喋ろうと考えたりする事もあったが、それが苦痛な時もあった。また、消極的な子は全体学習や授業がとても苦痛で、休み時間に嫌だと言う声もあった。少人数(友達内)でなら意見も出せるが、クラス内でも発言するのが苦手な子はいた。そういう時に先生のように熱く語りかけるのは引かれてしまうし、うまく言えないけど気まずい時もあった。

普段全く関わりのない同級生の考えが、あの場を通じて知ることが出来、自分とってる事が同じようだったら身近に思えて親近感が沸いた。

振り返り思うのは…

自分の考えと全く違う人の意見を聞くこと自体が貴重な事だと思う。学生時代は自分を認め合う者達だけで構成されてる所があるので…。でも中学生の時は思った事をそのまま発言して大体は受け入れてもらえたが、社会に出て正直に言う事で非難される事もあった。本音と建前が必要なのだと少しずつ学習？していった(処世術)。板中が全体学習に力を入れてて、全中学がしているわけではないと後に知った。

私は、中学生で発表していた時、緊張のあまりよく泣いていた。未だに自分の思いを口にする時は泣く内容でなくても泣いてしまう。結果自分の得意不得意がわかり自己認知できた。でもどうしても言いたい事は言おうとする力はついたのかなとも思う((^\_^))。

今、子供を育てている上で、思った事を口に出す、困った時に言えるようにしたいけど、どういう風な声かけをしていいかわからない。悲しい、やめて欲しいと言う思いを注意する事を、『怒る』という自分の思いだけぶつける形になって(子供に)、考えさせるといふ風に出来ていない。学校任せにははいけないけど、もっと小学生から気軽なしゃべり場的な場があれば、喋る力や聴く力が身に付くのかなと思ったりする。いや、私の小学生の時もあった気がする。同和問題学習というより道徳的な

学習、何でも自分の思いを喋ろうとする場を子供にもして欲しいし、参観日として行きたい。何を考えているのか知りたい。でもスマホ普及社会で発言する者が標的にならないか怖くもある。

世には変な先生(大人)が増えつつある中、〇〇先生、Y C先生、吉成先生筆頭に熱き指導者達がいたから、板中の学習は成り立ってたのかなと思います。このご時世、なかなか色々難しいと思います。

全体では難しくても、その都度正してくれる先生は必要なので、研究後また現場に戻って我が子を教えて欲しいです！